



学校便り  
No. 5

# 万里一空

令和6年5月16日(木)

文責：池田 誠

小学校の児童にタブレットが一人一台配付されてから5年が経ちます。新1年生においても、生活科の授業において、「朝顔をタブレットで撮影して保存する」というスキルを担当やICT支援員から教わっていました。また、どの学年においても、タブレットと電子黒板の活用は、児童の主体的な学びにとって欠かすことができないものとなっています。この号ではICTの活用の目的やメリット、本校の現状等について述べていきます。

## ICT活用の目的とメリット

ICT (Information and Communication Technology) を小学校で活用する目的は、文科省によると「情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見・解決したり自分の考えを形成したりしていくために、**情報活用能力を養うこと**」とされています。活用のメリットとしては、一般的に次のことが言われています。

- **今までの授業では実現できなかった事ができる。** (ビデオ会議、動画や画像の活用等)
- **児童のモチベーションが上がる。** (双方向性の授業により、児童の主体性が高まる。)
- **児童の情報活用能力を養える。** (情報化社会に適応した人材を育てることができる。)
- **楽しみながら、効率的な学習ができる。** (文字だけではなく、画像や動画を使うことで、視覚や聴覚に訴えることができ、楽しみながら効率的に授業を行うことができる。)
- **児童が授業に積極的に参加しやすくなる。** (普段、発表や発言が苦手な児童もタブレットを使うことで、児童同士の意見交換を行う協働学習も可能になるとともに、児童の理解度に合わせた個別学習も容易になる。主体的で対話的な深い学びの推進が図れる。)
- **教員の働き方改革の一助となる。** (教材作成の時間短縮、学習の効率化、情報共有など)

## 本校のICT活用の現状

本校では、熊本市が作成している「熊本市版ICT教育モデルカリキュラム」を基に、学年ごとにICT教育の年間カリキュラムを作り、上記の目的達成に向けて取り組んでいます。

【本校のICT教育の概要】

	1年	2年	3年	4年	5年	6年
基礎的な知識・技能	動画や写真の撮影と保存・紹介		インターネット検索 キーボードによる文字入力 写真の加工(トリミング)		動画の編集 写真の加工(色等) デジタル教科書の活用	
思考・判断表現力	簡単な思考ツール・ソフトの活用(ロイロノートやドリルパーク等)		ロイロノートによる情報共有や情報発信(文字・写真) 新聞やプレゼンの作成 GarageBandによる録音		ロイロノートに加え、メタモジやKeynote、Pagesによる情報共有や情報発信(文字・写真・動画) 新聞やプレゼンの作成 GarageBandによる録音・作曲	
プログラミング	ビスケットによるプログラミング		スクラッチによるプログラミング		スクラッチ Jr によるプログラミング	
情報モラル	コンピュータやインターネットの基本的なルールやマナーを理解する。		情報手段の利便性と危険性を理解し、自分や他の人への影響を考慮して適切に使用する。生活の中で必要となる情報セキュリティを理解する。			

本校でのICT活用の目的は、「**児童の情報活用能力を育成すること**」に加え、「**教科の学習目標を達成すること**」の2つです。この目的達成のためには、教職員のICT活用能力の向上も不可欠です。効果的なICT活用のために、校内研修で新しい思考ツールの体験講習を行ったり、ICT支援員を招聘してのレクチャー会を開いたりするなど、努力をしています。

## ICT のデメリット

児童は、これからの情報社会に対応していくために、情報や情報手段を主体的に選択し活用する「情報活用能力」を身につけなければなりません。

しかしながら、私たち大人は ICT 機器を使う上でのデメリットについても、しっかり頭に入れておく必要があると考えます。よく言われているデメリットは、次の通りです。

- 視力の低下や姿勢の悪化など、健康面への影響がある。
- 児童の「書く力」が低下する恐れがある。（確かにノートに字を書く時間は減っている。）
- 児童の「自分で考え粘り強く取組む力」が低下する恐れがある。（インターネットで検索すれば大抵の答えがすぐ手に入る。また、今後、AI が普及し始めたら・・・。）
- 体を使った体験活動がおろそかになる。
- 授業と関係ないことを検索し、学習に集中できなくなる。
- ICT 機器によっては授業の効率化が図れない場合がある。（ICT 機器は急に固まったり、複雑な操作が必要だったりする機器もある。また、授業の内容や展開によっては、紙ベースの方が速くて分かりやすいときがある。）
- 教員の負担が大きくなる場合がある。（教材研究だけではなく、機器操作のリテラシー習得に時間がかかる。）

特に健康面の影響については、大人である教職員や保護者が留意しなければいけない点だと考えます。授業の45分間ずっとタブレットを見ている授業は論外ですし、家庭に持ち帰ったタブレットで何時間も動画（YouTube 等）を観ることも、やってはいけないことです。（学校のタブレットは学習用です。）

～終わりに～

授業での ICT 活用自体が目的ではなく、前述のとおり、私たち教職員は「教科の学習目標を達成すること」を目的に、あくまでもその手段として ICT を活用しています。そのうえで、並行して児童の情報活用能力が向上していけばと考えています。

そのためには、授業のどこで（課題提示のとき、課題解決のとき、振り返りのとき）使うか、どのツールやソフトを使うか、そのツールをどのように使うのか、そして、言葉や紙より効果的で分かりやすいのか等をしっかり考え、ICT を活用していく必要があるでしょう。

